

令和2年4月8日  
釈尊降誕会之辰

自法寺檀信徒各位

## 自法寺における感染症対策と 今後の法要や葬儀のあり方について

### はじめに

世界のみならず日本国内各地において、新型コロナウイルスの蔓延がとどまるところを知りません。岐阜県下での感染者数も全国上位に位置し、もはや他人事とは言えない事態となりました。

そして3月末には愛媛県において、とうとう通夜葬儀の場におけるクラスター感染も発生してしまいました。

遠近から多数の親族や会葬者を迎えて執り行われる葬儀や法事は、密集、密接、密閉の環境になりやすいです。その危険性を感じつつも、遺族あるいは施主家の方が、初めて利用する葬儀の会場や、不慣れな仏事の場での感染症対策を考慮し、対策を実行することは至難であると思われれます。

このような場合、仏事を率先して取り仕切るのは住職であり、葬儀社に指導できるのもまた住職のみであります。このことから、自法寺住職としての責任において、式中の感染を防ぐため、今後どのような取り組みをするべきか、お寺としての対策と、皆様に考慮いただきたい内容を以下のようにまとめましたので、お目通しいただきたくお願いいたします。

### 法事のあり方について

法事は遠近からの親族が集合し、故人への想いを偲ぶのみならず、互いの親交を深める交流の場でもあります。しかしその環境自体がすでに密集密接を生じさせる危険があります。かと言って、危険だから全く法事を行わないという方向に走るとは、あまりにも拙速であると思います。そこで少しでも安全に配慮した形で執り行えるよう対策を考えました。

---

### お寺からの提案と対策

#### 【法事の内容】

これまでは皆さまに経本をお配りし、皆様とゆっくり和文のお経をお唱えしておりましたが、飛沫感染を防ぐため、事態が終息するまで、これからしばらくは住職

一人でお経をお唱えいたします。これまでは30～40分程度かかっていた法要の時間が、20～30分程度になります。

#### 【マスク着用】

法事の前、法要中に関わらず、マスク着用の方はそのままお参りください。お寺参りの際も同様にしてください。仏前でマスクを着用することが、仏に対して失礼であるということはありませんのでご安心ください。

#### 【焼香】

法要中の焼香は接触感染防止のため、基本的に廻し焼香は取りやめます。参加者数と仏間の広さから、廻し焼香にせざるを得ない場合は、法要後の手洗いの徹底をお願いいたします。多人数が一つの物体（焼香台）を取り回すことによる接触感染防止のため。

#### 【お茶】

お寺でお茶をお飲みいただく際、お茶をお注ぎいただく方は、1名または2名に限定してください。また、お茶をお注ぎいただく方には、作業前に十分な手洗いをお願いいたします。これは多人数が一つの物体（急須やポットなど）を触ることによる接触感染を防止することが目的です。

---

皆様にご検討いただきたいこと

#### 【参加者】

法事にお招きする親族について、遠方あるいは汚染地域の方については、事情を説明したうえで、参列を遠慮していただく必要も出てくるかと思えます。あるいは家族のみの最低人数での開催もご検討ください。

#### 【換気】

換気をよくするために、ご自宅の仏間で法事を行う場合は、寒暖に関わらず、最低2箇所以上の窓を開けていただきたく思います。密閉を避け、エアロゾル感染を予防するため。

#### 【会場】

法事の参加者数とご自宅の仏間の広さから、密集状態を避けられないと思われる場合には、自宅での法事に拘らず、「上げ法事」（本来は自宅でする法事をお寺の本堂で執り行うこと）に切り替え、ご親族には直接お寺に集合いただくという方法もあります。

## 【食事】

法事の後の食事について、料理屋での会食ではなく、代わりにお弁当などを持ち帰ってもらう方法は取れないか？ 多人数による会食の場は、どうしても三密を避けられず、お酌に回ったり、お酒が入って話も弾めば、さらに相互感染のリスクが高まると認識していただきたいです。しかし、これを全く取りやめてしまうのは調理業者等への経済的ダメージもあるため、次善の策として持ち帰りのお弁当をお渡しするという提案です。

## 葬儀について

葬儀についても法事と同様に、三密を発生しやすい環境になります。さらに、親族のみならず、職場や地域はじめ、遠近各方面から多数の会葬者が訪れるため、法事よりもさらに感染のリスクが高まると考えられます。

しかし、家族を失った遺族にとって、ただでさえ動転しているであろう状況下で、よくわからない感染症のことまで気が回らないことは当然かと思えます。

したがってあらかじめこのことを考え、いくつかの確認事項を列挙しておくことで、事前の対策といたしたいと思います。基本的には法事の場合の対策と同じとなりますが、特に葬儀の場合に想定しうる事柄を以下に提示いたします。

---

### お寺からの提案と対策

#### 【会場】

通夜や葬儀を自宅で行う場合は、法事と同様に換気に心がけていただきたいです。長く施設や病院で過ごされた故人のご遺体を、一度ご自宅に運ばれることは構わないでしょうが、人が集まる場所からは、できれば風通しの良い広い会場（集会所、葬儀場、お寺）で行われる方が好ましいでしょう。例え親族といえども、自宅の狭い仏間に長時間密集することは危険とされます。

#### 【会葬者】

通夜葬儀の会葬者は、式中は席にお座りいただくことなく、来場され受付を済ませたら、直ちに焼香を済ませ、そのままお帰りいただくようお願いいたします。

---

### 皆様にご検討いただきたいこと

#### 【食事】

通夜振舞いの寿司や葬儀後の食事などは、全てお持ち帰りさせていただくようにはお願いできませんでしょうか。親族、会葬者、近隣の方などと、故人を偲びながらの語らいの時間として、共に食事をする事は本来必要なことではありますが、非常時であることをご理解いただき、ご検討をお願いしたく思います。

#### 【その他の時間】

火葬から取骨までの空き時間などに、互いに同じ空間に長時間滞在することのないよう、ご配慮をお願いいたします。施主家での滞在についても同様に、できるだけ密集を避けるように、親族の集合時間などもギリギリで構いませんのでご配慮をください。

---

### 葬儀社へのお願い

#### 【手指消毒】

来場者の出入りの際には、会葬者が手をしっかり消毒できるように、ご案内をお願いいたします。受付で触るペン、会場内の手摺りやテーブル、その他共用部分を介在したウイルスの伝播を防ぐためです。会場に入る時と出る時、共に十分な周知をお願いいたします。

#### 【席の間隔】

式中の遺族の方の席の間隔は、互いの距離が十分取れるように配置をお願いいたします。発声をする僧侶からの、あるいは僧侶同士の間隔にも、十分なご配慮を願います。

#### 【焼香案内】

会葬者の焼香のタイミングは、通夜葬儀共に、式中いつでも構いませんので、人が滞留する事のないよう、そして互いに密集することのないよう、会葬者の間隔を保ちながらのご案内をお願いいたします。

#### 【香典返し】

香典返しなどは、受付係の者が手渡しする必要があるないように、ご自身でお持ちいただける形でののご案内をお願いいたします。また、準備の段階でも、複数の者が素手で触る事のないように、ご配慮ください。

## ご家族が新型コロナウイルスに感染し、お亡くなりになった場合には

もし仮にご家族が新型コロナウイルスに感染しお亡くなりになった場合、ご遺族も濃厚接触者となり、自己隔離、あるいは既に発症入院していることも十分に想定されます。そしてこのような状態で葬儀を行うことは困難とも予想されます。

このような場合、枕経ないし火葬の場には、住職が出向き御供養申し上げます。これをもって簡易な密葬儀とさせていただき、お骨の状態でご自宅で安置いただくか、もしくはそれが困難な場合はお寺でお預かりします。

そして数週間後、ないしご家族の状況が落ち着いた段階で、改めて葬儀を執り行われるのがよろしいと思います。

## おわりに

進化論を提唱したチャールズ・ダーウインは、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である。」との言葉を残しております。

伝統と歴史の中に生きている我々仏教者は、長い歴史の中で、過去のあり方に固執するのではなく、常に時代や社会状況に合わせて柔軟にそのあり方を変えていくことによって、これまで様々な危機を乗り越えて、生き残り続けてきました。

今回の事象は、社会システムが劇的に変化することが予測される事態ではありますが、大切なことは守りつつ、変化に応じて生き延びる術を皆さまと共に求めて行きたいと思っております。

政府の新型コロナウイルス対策専門家会議の尾身茂副座長は、3月19日夜の同会議の第8回会合後に行った記者会見上で、「感染者、濃厚接触者とその家族、この感染症の対策や治療に当たる医療従事者とその家族に対する偏見や差別につながるような行為は断じて許されません。誰もが感染者、濃厚接触者になりうる状況であることを受け止めていただきたいと思います」と述べております。

自らの命の危険が近づいた時、普段心の奥底にある差別意識や他者への攻撃感情が顕在化することがあります。しかしそんな時だからこそ、我々は決して「他者を思いやる心」を忘れる事のないように毎日を過ごさねばならないのだと、自らに銘記したく思います。

今回このようなご提案をさせていただくことによって、檀信徒の皆様のご生活への不安を少しでも低減させていただくことができ、健康で安全な日常を過ごしていただければ、幸甚と思っております。

自法寺住職 拝